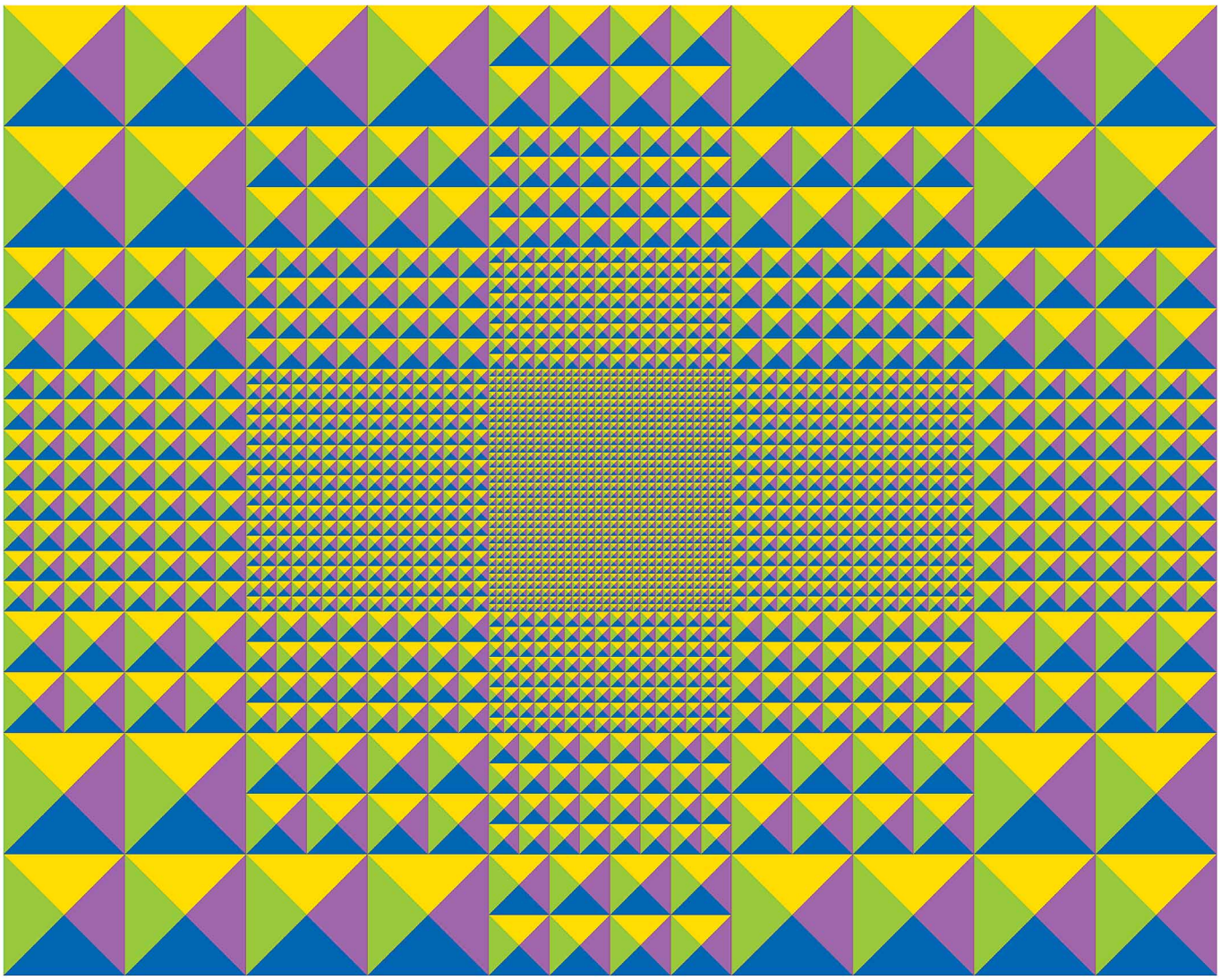
なごや文化情報

2011
9
Sep.

No.330

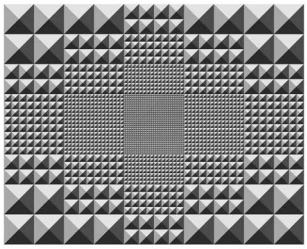
NAGOYA
Cultural
Information



公益財団法人 名古屋市文化振興事業団

Contents

九月のうた・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
随想　吉見優子（ゆうこ♡バレエスタジオ代表）・・・・・・・・・・ 3
視点　ワークショップの今を支える2つの顔 まとめ／はせひろいち・・ 4
この人と・・・　中田直宏さん（下） 聞き手／小沢優子・・・ 6
ピックアップ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
おしらせ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9



表紙

作品
「GRADATION FIELD 3」
（2011年）

使用されているパーツは色も形も同じものが使われている。ただし大きさが中心に向かって小さくなっていくために、中心では４色が混ざり合い、まるで１色になったように感じられる。

村田直哉（むらた　なおや）
1968年三重県生まれ
愛知県立芸術大学大学院美術研究科デザイン専攻修了
1996年第４回メキシコ国際ポスタービエンナーレ銀賞受賞
2003年名古屋市文化振興事業団芸術創造賞受賞
現在、名古屋造形大学准教授

九月のうた

鷹渡る

岩月通子（いわつき　みちこ）

点・線となり鷹となり渡りけり
覆ひくる鷹の羽音や伊良虞崎
鷹渡る一千年はきのふけふ
島々のあれが神島けふの月
半島のさらに岬の秋の風

岡崎のうちの庭に、アサギマダラが二頭、ゆったりとした羽づかいで、フジバカマの花を回った。わたしは藤島武二の描いた「蝶」の舞う中に立つ女の気分になった。アサギマダラという蝶は、台湾までも南下するという。

鷹の渡る頃、伊良湖岬は全国のナンバープレートをつけた車でひしめく。神島をのぞみながら…。

季節のめぐりの、何と豪華なこと！そして、何とひそやかなことか。

（「晨」同人）

随想

前へ進むとは

吉見（よしみ） 優子（ゆうこ）（ゆうこ♡バレエスタジオ代表、演出・振付家）

もしも、みんなが何のために生きているかを知っていたなら…。

きっと人は自分で人生の計画を立てて、この世に降りて来たのだと思う。そして生まれる瞬間、何もかも忘れてこの世に降り立つのだと思う。その時から死ぬまで人は努力をする。きっと努力は大変だし結果が伴うときと、そうでない時があるから、報われることもあれば、反対もある。そしてまた、努力をする。だから喜び、悲しみ、疲れたりする。

でも、もし努力しないで全てうまくいってしまったら人はどうなるだろう？（努力せずに達成したことがない私にはわからないけれど。）きっと、人は達成感を求めて次から次へと何かを探して、そこでまた、悩むんだろうな…と思う。不思議。

不思議といえば、昨年、ダンサー引退公演として「ロメオとジュリエット」（全幕）を上演。オーケストラの演奏と愛知県芸術劇場大ホールという条件で踊るってずっと前から決めていた。そして、怪我をしても不安でなく、緊張もしないでできる気がしていた。

いつも全幕をすると必ず目を負傷するのだけど、今回は最悪。ゲネプロで汗をかきすぎて、つけまつげが半分取れてしまった!!ドンピシャというつけまつげのノリで付けようと思い、半分ぶら下がったままドンピシャを眼の上にブチュって出したら眼の中に入ってしまい、まぶたはくっつき、コンタクトレンズは白くなり…大トラブルに発展してしまった。おかげで本番は緊張どころか、まぶたがくっつかない様に後ろを向くたびに瞬きを何回もして…これも不思議。こんな悲惨な状況でも、結果は名古屋市民芸術祭特別賞を受賞。

今は現役を引退したので、子どもたちの上達と心のケアに努力していこうと考えています。

今年は7月23日（土）に創作「不思議の国のアリス」を上演。子どもたちの演技指導はとても大変と実感。

ただ、私は人生、悩んだ分だけ演技が膨らむことを教えています。想像力が豊かなダンサーを育てたいと思っています。人間力を深め、人生を生き抜いていってほしいと願っています。（私もですが。）

必ず決めた道があるから…

Report

視点

ワークショップの今を支える２つの顔

ワークショップなる言葉と理念が舞台芸術界隈に登場してから、もうどれくらい経つだろう。すっかり市民権を得た感の反面、近年では「ワークショップ難民」「ワークショップ依存」などという意地悪な言葉も耳にする。そこで今回は、地道な活動を続ける「名古屋演劇教室」と「演劇練習館アクテノン」の、いわば「内と外」の２つの側面からワークショップの今後の可能性を探ってみたい。　（まとめ：はせ ひろいち）

「長期型」でなければできないコト

「名古屋演劇教室」――。実にシンプルで直球なネーミングだ。一見、公共事業のような印象も受けるが、これはあくまで民間の活動である。「本当はもっとオシャレな名前をと思ってたんだけど…」と話すのは代表の小熊ヒデジ氏。てんぷくプロの俳優にして、KUDANプロジェクトのプロデューサーでもあり、いわば名古屋小劇場の顔でもある。「教室って響きは悪くないなって思いましたね。今年で４年目を迎えてますが、毎年少しずつ参加者が増えてきています」と小熊氏。これはあくまで私見だが、プロデューサーとしての小熊氏は、実に温厚で物静かだ。役者の時に受ける影響力とは全然違う。

小熊ヒデジ 氏

名古屋演劇教室の主な活動は、年間を通じての「初心者のための演劇ワークショップ」と単発的な「短期集中ワークショップ」に分けられるが、特に前者は毎年５月にスタートして翌３月まで毎週１回、約３時間のレッスンとなる。一般的なワークショップが「短期間で気軽に体験できて、後くされなく終わる」のに比べれば、開催側の覚悟も違い、受ける側のハードルも決して低いわけではない。

初心者の為の演劇ワークショップ稽古風景（2011年2月）

俳優の為の短期集中講座 vol.9（2011年1月）
講師：前田司郎

NAGOYAダイヤモンズ公演 vol.3
「アイスクリームマン」（2011年3月）

おまけに３月の解散前にはちゃんと発表会も行い、観客を招いての場が設けられている。「ある意味、劇団の疑似体験をしてもらっているかもしれませんね。短期型とは違い、その年その年のチームワークみたいなものが自然に生まれます」と小熊氏。長期型ならではの苦労を尋ねると「ほとんど感じてないけど、長い分、受講生が飽きないような工夫や調整はしてますね。持続するにはそれだけのエネルギーが必要で、なるべくそれを軽減してあげたい」との答えが返ってきた。事実、年間に数人の外部講師を招き、いろんな側面から演劇にアプローチできるシステムを取っている。これなんかは「短期型のワークショップ」にも、逆に作品発表が活動の中心にならざるを得ない「劇団」にもなかなか取れないスタンスではないだろうか？劇団の門を叩くまでの勇気と熱意は持てないけど、舞台表現に関心がある面々は潜在的に多いといわれる昨今、大きな魅力ではないだろうか？　また反面、いろんなワークショップをネットサーフィンのごとく渡り歩き、かといってなかなか舞台の本質である「本番」には近づけないのに、ある種の達成感で満足している、いわゆる「ワークショップ難民」の人たちを受け入れる懐の深さも持っている。事実、参加者は仕事帰りのサラリーマンもいれば、プロを目指す若者もいる。自分を見つめ直したい中高年の女性もいれば、他の表現集団に所属する者もいる。いわゆる「ごった煮」なのだが、この雑多な価値観の同居が何か新しい事を生むパワーとして、確かに存在している。地道ながらも「１年を通じた教室」であるこの活動が、今後の演劇ワークショップのあり方に、一つのヒントをくれている気がするのだ。

名古屋こそ「舞台芸術的ハブ空港」に

「始めた動機は結構シンプルでね、たまたまその年に見た東京の若手の芝居が、どれも本当に新しくておもしろかった。名古屋も何か動きを起こさないとまずいんじゃないかと思ってね。で、自分に無理なくできることを探して始めたのがこの組織」と話す小熊さんに、先述の役者としての小熊さんとのギャップを伝えてみた。「僕は元々、制作的なコトが苦にならない、というかむしろ合ってる感じなんだよね、性格的にも」と前置きした後で「僕が名古屋の演劇をおもしろくしたい、って思うのはそのまま『そのおもしろい芝居に自分が出たい』って純粋な欲に繋がっている。だから僕にとっては演劇教室も役者の僕も、実に自然な流れなんだよね」との言葉が返ってきた。東京の劇団からの出演依頼も多く、KUDANプロジェクトでは海外公演の経験も多い彼ならではの「名古屋への想い」なのだろう。熱い想いに支えられながらも、継続の力を信じた地道な活動。短期型のワークショップが「手軽さ」ゆえに忘れがちな芝居の本質が垣間見れる。「継続の中に大きなムーブメントが生まれる可能性があると思う。僕自身も5年目あたりに期待してます。名古屋は東西の芝居をつなぐ地理的な利点もある。発信と受け入れ両面が備わった『ハブ空港』のような存在になれればって思いますね」との発言が印象的だった。あえて書き添えるが、この活動自体が予算的にはギリギリの成立だという。決して個人的に潤ってはいない。まさに民間主導の潔さに満ち溢れている。

「演劇のハードル」を取り払いたい

そんな名古屋演劇教室の活動を「器として」支えるのが演劇練習館アクテノンだ。「基本は既存の劇団や集団の稽古場としての利用であって、小熊さんのトコのような長期型のワークショップはまだまだ稀ですね」と話すのは館長の寺脇さん。思えば「演劇練習館」もまた、実に直球でブレがない名前だ。開設15年。演劇人には十分知れ渡った存在だが、寺脇館長の思いはまだまだ先にある。「かつては配水塔、その後に図書館という、地元の人たちにとってまさに『風景だった』場所ですからね。演劇という名前がついた施設になって、自然に上がったハードルをもっと低くしていきたい」と語る。

アクテノン外観（稲葉地公園内）

アクテノンを「器」としたのはあくまでニュアンスの話であり、実際には多くの自主事業が組まれている。秋に行われる野外フェスティバル（今年は10月8･9日）や定期的に開催される子ども演劇教室に加え、「寺子屋アクテノン」と名づけられた伝統的な遊びの伝承、1Fの資料コーナーのスペースを利用した演劇の舞台写真展、さらには介護施設や児童館などに出向いて行われる「デリバリーアクテノン」なる試みもあり、実に柔軟かつ多彩なのだ。

昨年11月のアクテノン参観日の様子

寺子屋アクテノンなどは職員が自前で勉強してボランティア講師になることもある。「他に11月23日は『参観日』と名づけて一般市民に各部屋を自由に見学してもらう日にしています。もちろん参加団体は普通に稽古や練習をしているわけで、そこをそのまま見てもらう。一応その日の使用料は無料にしてますが、表現団体の協力あって初めてできている試みですね」と館長。地元や市民に気を遣うのは公共施設としてはありがちな発想ではあるものの、あくまで「演劇」を主体に置いて、表現者と一般市民を「繋ぎたい」という大きな意思に裏打ちされ、積極的かつ大胆な想いに貫かれている。特に参観日の狙いなんかは、芝居人の「見られたい本質」を上手く取り入れた、実にアクテノンらしい企画だと思われる。

演劇を永続的に支え続ける「想い」

もちろんこの誌面のこの文字数で、演劇ワークショップの現状と今後の課題に結論めいたものが導けるとは思っていない。だが、小熊さん率いる地道な名古屋演劇教室とアクテノンの2つの活動が、「劇団」と「短期型ワークショップ」が満たしきれてない「表現をしたい純粋な気持ち」に何かしらの答えを提供し、今後のワークショップのあり方に指針を与えている気がする。七ツ寺共同スタジオが独自の市民劇団を立ち上げたり、名古屋に帰還した北村想氏が天白のロフトを活動拠点に全く新しい芝居のシステムを立ち上げたり、今までにない動きも見えてきている昨今、今後も演劇を支えるいろいろな活動を見つめ、名古屋の演劇事情がどう進化していくのかを考察していきたいと思うのだ。

取材の際、実は小熊さんと寺脇館長には一時的に同席してもらう場面があった。「お互いに何か不満はないですか？」との意地悪な質問に対し、寺脇館長が「演劇の人達の礼儀のよさに驚いてる」と言い、小熊さんが「夜遅くまで使えるし、現状何も不満はないです」と言った。「あ、でも…」と付け加えた小熊さんの発言に、筆者は深く共感し、その実現を祈った。彼の視線はどこか遠くを見ていた。「無理を承知で言うならば…ぜひ『第2アクテノン』を市内のどこかに欲しいですね」。

名古屋演劇教室　ホームページ　名古屋演劇教室　検索
ツイッター　Twitter@nagoya_drama_la
名古屋市演劇練習館アクテノン　TEL　052-413-6631

この人と…

作曲家・愛知教育大学名誉教授

中田 直宏（なかた なおひろ）さん 下

これからも作曲を

1994（平成6）年にクラスノダール市芸術賞、2006（平成18）年に佐川吉男音楽賞奨励賞を受賞した中田直宏さんは指揮者でもあり、今年の5月には九州の演奏会を指揮されている。本号は、中田さんの多方面に渡る活動について。どのように曲を書かれているのか、創作の様子もたずねてみた。大学を退官され音楽に専念できる環境となり、作曲家としてさらなる充実のときを迎えようとしている。（聞き手：小沢優子）

オーケストラを指揮

作曲とともにオーケストラの指揮もまた中田さんの重要な活動である。名古屋放送管弦楽団の演奏会や、名古屋フィルハーモニー交響楽団の岡崎や刈谷などでの特別演奏会、学校を訪問する巡回演奏会をたびたび振るほか、名古屋二期会とも早くから関わりを持ち、1980（昭和55）年の自作オペラ《玉手箱かぐやひめ物語》を始め、《マルタ》《ヘンゼルとグレーテル》《修道女アンジェリカ》等を指揮している。「オペラの暗譜は半年かかりますが、それに比べれば交響曲や協奏曲は楽ですね」とおっしゃるように、バイロイトでロリン・マゼールに刺激されて以来、オペラの指揮も暗譜でおこなっている。

名古屋フィルハーモニー交響楽団特別演奏会の練習風景（1982年）

ロシア、クラスノダールで

ロシアのクラスノダール市は、黒海近くの人口70万の都市。中田さんは1993（平成5）年にここでおこなわれた国際フェスティヴァルの音楽祭に特別招聘の外国人作曲家として招かれている。前年、音楽祭に日本人作曲家が呼ばれることになったので関係者から打診を受け、大学の卒業作品で楽譜が出版されている《ヴァイオリン・ソナタ》などが決め手となり、招聘に至ったのだ。

全ロシア作曲家同盟会議室で 右から5人目が委員長のカゼーニン氏

ロシアでは、まずモスクワで記者会見と、全ロシア作曲家同盟の幹部との会合。初代ショスタコーヴィチから数えて3代目の委員長である作曲家のカゼーニン氏も同席し、日本の作曲家の現状などいろいろなことを質問された。日本では、著名な作曲家でも生活するのに十分な委嘱があるわけではなく他に収入を求めなければならない、と説明すると不思議そうな顔をされた。ロシアのエリート級の作曲家は公務員で、高級車・運転手・秘書付きの好待遇。ロシアでこうなのだから、豊かな日本ではもっと恵まれているだろうと思われたのだが、それほど

当時のロシアでは日本のことが知られていなかったようである。

クラスノダールの音楽祭では中田さんのほぼすべての曲が演奏された。国立ロストフ交響楽団を指揮して自作を演奏することもあり、指揮者としての力量も示した。それらは好評を博し、とくに、1983（昭和58）年に安城合唱団によって初演された伊東静雄の詩による合唱曲《わがひとに与ふる哀歌》は「スラヴ民族の魂にふれる名曲」と賞賛されている。音楽祭の模様は国営放送で全ロシアに放映。翌年、クラスノダール市芸術賞を授賞された。

滞在中、「ヴァイオリンのレッスンを受けたい」と言われ固辞したが、少女が地方からバスで10時間かけて来たと知り、断れなくなった。少女は確かなテクニックでチャイコフスキーの協奏曲を弾いたが、チャイコフスキーの国で日本人の自分がアドヴァイスしていることを感慨深く思ったことも忘れられない。

クラスノダールで少女（左）にアドヴァイス
中央は通訳のマリーナさん

《なよ竹の輝夜》

中田さんとオペラとのご縁は深く、すでに菊里高校時代に先生の脚本をもとに《浜木綿（はまゆう）》というオペラを作曲している。清く正しく生きた花魁の一生を描いたこの作品は学校の定期演奏会で上演され、新聞やラジオでも取り上げられて注目を集めている。

作曲家となりさまざまな曲を手がけていく中で、1980（昭和55）年には名古屋二期会創立10周年記念のためのオペラ《玉手箱かぐやひめ物語》を作曲。その後、名古屋二期会のオペラ公演の指揮や総監督を務め、2003（平成15）年からは同会の会長（現在、同顧問）。2005（平成17）年には、《玉手箱かぐやひめ物語》を大幅に改訂した《なよ竹の輝夜》が「愛・地球博」のパートナーシップ事業の一環として上演されている。

《なよ竹の輝夜》は竹取物語を主な題材とした日本もののオペラだが、「まず全体の響きをつくり、そこに歌を織り込むことが多かったですね」という中田さんの言葉どおり、オーケストラの密度の濃い響きが基調となっている。だから、日本的な旋律を含みながらも常にたっぷりとした流れが織りなされ、物語はドラマティックに起伏豊かに運ばれている。西川右近氏の演出、朝倉摂氏の美術による舞台と音楽は一体化。《なよ竹の輝夜》は新聞や雑誌でも高い評価を受け、佐川吉男音楽賞奨励賞を受賞している。

創作について

作曲の筆が進むのはたいてい夜であるが、その日用事のために少しでも外出をしていると作業はなぜかはかどらない。考え悩む時間があるにせよ、1日すべてを費やさないと調子が出ないのだ。また、深夜3、4時頃ひとまず途中で切り上げ、翌日になって書きかけの楽譜を見ると、全く気分がつながらず破棄したくなることがよくあるという。

「インスピレーションは起こりますが、それを音にして楽譜を書いていくのはかなり時間がかかります。どんなに短い曲でも一気呵成ということはありません。何日もかかります。その間、持続力や集中力が保たれるといいですね…」、「好調な時はうれしくて自信を持てますが、作曲ができなくなったのではないかと思うくらい書けないこともあります。そのくり返しです」と、創作の難しさについて語ってくださった。

最近の日々、諫早の演奏会

今年の春に椙山女学園大学を退官され、溜まる一方であった好きなジャズのレコードを聴くことができるようになったのが一番の楽しみであるが、音楽活動が止むことはない。5月7日には九州の諫早市の諫早文化会館で九州交響楽団の奏者から結成された九州室内合奏団を指揮。モーツァルトやグリーグのピアノ協奏曲、サン=サーンスの《動物の謝肉祭》のほか、立原道造の詩による1983（昭和58）年初演の合唱曲《夢のあと》とクラスノダールで絶賛された《わがひとに与ふる哀歌》を演奏している。ビデオを拝見させていただいたが、オーケストラと地元の合唱団を明快、知的にまとめる指揮であった。

今年5月の諫早での演奏会 九州室内合奏団を指揮

この日の演奏会には福岡教育大学での最初の教え子や椙山女学園大学の最後の教え子たちが集まり、打ち上げのパーティーでは皆で一緒に写真におさまった。教え子たちの年齢差は約50歳。中田さんの長い教員生活を象徴するような1枚である。

同上演奏会の後の打ち上げパーティー
最初の教え子と最後の教え子とともに

大学の勤めが一段落したので、以前から頼まれていた作品に本腰をいれて取り組むつもりである。「これから、本当の意味で作曲家になれるのかな…」。今年中に3、4曲は仕上げたいと思っている。（了）

ピックアップ

人形の役割

人形工房アトリエ「羅道」の工房主、人形美術家おばらしげる氏は、25年前に東京より移り名古屋で工房を設立した。仕事はテレビ、劇団などの制作依頼で人形、着ぐるみ、腹話術人形、舞台美術、その他と多方面に渡り、作品数は1,500体以上に及ぶ。

筆者がおばら氏に会うきっかけは、人形劇俳優・平（たいら）　常（じょう）氏の舞台を観て身体表現のおもしろさを感じていたからで、それは人形と人間が対等であり、自らも身体表現をした大人向けの人形劇だった。作品は大掛かりで苦労されたそうだが、平氏について「大人の鑑賞に堪える作品で、子どもの世界に限らない視点で拡げており、媚びない姿勢が良い」と賞賛されていた。

おばら氏は現在、北海道の阿寒湖温泉で来年開館予定の「アイヌシアター」で上演する作品（アイヌ民話原案の人形劇・10月初演）の準備を地元の人たちと進行中である。

また、名古屋での活動は「人形とセラピー」で、身障者の人たちが団員である人形劇団「紙風船」を惜しみなく援助されている。この劇団は養護学校でセラピーをうけて卒業した人たちで構成。障害のある人が人形操作をするためには、障害の状況に沿った人形制作、操作の仕方、車いすでの設置、ラジコン操作と創意工夫が限りなく必要となる。また、制作の間にも身体は変化しているので、その都度、対応を求められる。人形を介して心や感情を表現する場合、人形がクッションとなって直接的な表現ではなくなり、優しくなれることが良いとのこと。確かに語りかけられる方もそうなれる。人形制作においてのポイントは、人形が語り過ぎない自然体であることと、おばら氏。操作する人の心と感情が相い混ざって表現されることで初めて人形に表情が生まれ、生命が吹き込まれ活き活きと輝く。それが人形と人間がひとつになる身体表現といえるだろう。「紙風船」は、心のバリアフリーをテーマにして創られた3作品を上演することができ、公演依頼をうけて劇団員が日々の生活と人生を築いていけるように健常者のスタッフが支えている。

人形の役割は、人と人の絆を優しく繋げてくれることで、限りなく創造が広がり、そこに人形の力があると、おばら氏は熱く語られた。

問い合わせ　人形工房アトリエ「羅道」
TEL 052－762－9730
「紙風船」NPO法人 愛実の会
TEL 052－693－5897　（K）

工房にて

おしらせ

Information

歴史文化講演会のご案内

教養の秋、文化小劇場で名古屋の歴史について学んでみませんか?是非ともお近くの文化小劇場へお出かけください。

市政資料館×文化小劇場連携企画 特別講演会
「文化小劇場で紡ぎ出す名古屋の歴史2011」

名古屋市域の原始・古代から現代に至る歴史を編さんした「新修名古屋市史」の編集・執筆に携わった歴史の専門家による特別講演会を開催します。

10月 7日(金)　13:00　南文化小劇場(定員394人)
①テーマ**「伊勢湾台風の建築被害と建築規制」**
講　師 松尾博雄
(新修名古屋市史資料編編集委員・元豊田工業高等専門学校教授)
②テーマ**「幕末・維新期の社会情勢と尾張藩」**
講　師 黒田安雄(愛知学院大学客員教授)

10月12日(水)　13:00　中川文化小劇場(定員446人)
①テーマ**「江戸期中川区の歴史地理的環境－地誌・絵図・図会から－」**
講　師 溝口常俊(名古屋大学大学院環境学研究科長)
②テーマ**「下之一色の漁業」**
講　師 津田豊彦(新修名古屋市史資料編編集委員)

10月20日(木)　13:00　千種文化小劇場(定員251人)
①テーマ**「名古屋の水辺の動物たち」**
講　師 矢部　隆(愛知学泉大学教授)
②テーマ**「市内に残る戦国の城をたずねる」**
講　師 岡村弘子(名古屋市博物館学芸員)

中村公園文化プラザ 歴史文化のつどい

石田三成と加藤清正は、ともに豊臣家臣として有名です。2人は、正反対のタイプで、多くの場面で対立しました。
2人の人間像や対立の様子、そこから関ヶ原の戦いへと進んでいく流れを紹介します。

10月19日(水)　14:00
中村文化小劇場(定員350人)
テーマ**「三成と清正」**
講　師 小西恒典(秀吉清正記念館学芸員)

西文化小劇場 歴史文化講演会

明治維新期の激動を乗り越えた尾張徳川家14代 慶勝は、写真好きの殿様としても知られ、名古屋城をはじめ幕末・明治の風景を数多く残しました。慶勝が撮影した写真を通して、当時の名古屋城や江戸の風景を紹介します。

11月15日(火)　13:00
西文化小劇場(定員346人)
テーマ**「尾張徳川家14代 慶勝が見た幕末・明治」**
講　師 原　史彦(徳川美術館主任学芸員)

入場料　無　料(事前申込不要・当日先着順)
問い合わせ　公益財団法人 名古屋市文化振興事業団　TEL 052-249-9387 FAX 052-249-9386

Information

伝統文化シネマ鑑賞会 10・11・12月

日本の伝統文化を未来に一人間国宝の卓越したわざ、各地域に伝承されてきた民俗行事は、時代を超えて私たちに語りかけてきます。
優れた無形の伝統文化を記録した映画を月1回、各文化小劇場にて上映します。

岩手・みちのくの鬼たち

陶芸・十三代今右衛門

狂言・野村万蔵

日時・会場・上映作品

10月26日(水)14:00　中川文化小劇場
①岩　手「みちのくの鬼たち－鬼剣舞の里－」(36分・1996年完成)
②竹工芸「竹工芸・飯塚小玕齋」(30分・1986年完成)

11月18日(金)14:00　緑文化小劇場
①陶　芸「十三代今右衛門 薄墨の美」(36分・1994年完成)
②漆　芸「うつわに託す－大西勲の髹漆－」(35分・2009年完成)

12月 6日(火)14:00　西文化小劇場
①和　紙「細川紙の美を漉く－和紙のこころ－」(30分・1982年完成)
②狂　言「狂言・野村万蔵－技とこころ－」(50分・1999年完成)

料　金　無　料(当日先着順)
主　催　公益財団法人名古屋市文化振興事業団・財団法人ポーラ伝統文化振興財団
問い合わせ・定員
中川文化小劇場(定員446人)　TEL052-369-1845　FAX052-369-1846
緑文化小劇場(定員446人)　TEL052-879-6006　FAX052-879-6007
西文化小劇場(定員346人)　TEL052-523-0080　FAX052-523-0081

第７回 尾張名古屋バンド決戦！　出演者募集

名古屋発のロック、ポップスを中心としたバンドコンテストを開催します。

第６回優勝バンド　SONIC BOOM

- 対　　象　青少年（メンバーの半数以上が29歳以下）
- 人　　数　本選出場10バンド
- 応募方法　オーディオCD、写真を添え専用の申し込み用紙にて応募
- 配 布 先　市内各ライブハウス、劇場等、ホームページよりダウンロード
- 応募期間　11月1日（火）～11月30日（水）〈当日消印有効〉
- 主　　催　名古屋市文化振興事業団、名古屋市、東海テレビ放送、東海ラジオ放送、FM AICHI、ZIP－FM
- 協　　力　エレクトリックレディランド、ハートランドスタジオ、ヤマハ株式会社、音楽情報サイトえびてん!、CRYSTAL GEYSER
- 問い合わせ　TEL 052-249-9387　FAX 052-249-9386（(公財）名古屋市文化振興事業団 ）

名古屋市民芸術祭2011

名古屋市民芸術祭は今年で22回目を迎えました。毎年10～11月に音楽・演劇・舞踊・伝統芸能・美術・文芸・生活芸術の幅広いジャンルにおいて、主催事業・参加事業が繰り広げられ、名古屋の秋を彩ります。今月号では主催事業について、参加事業については次号でお知らせします。

主催事業　主催事業は、名古屋で活躍する芸術家や芸術文化団体にスポットを当て優れた芸術を紹介する事業で、今年は５事業を企画しました。

文芸　名古屋市民文芸祭

短歌、俳句、川柳、詩、エッセイ、童話・児童文学の作品を広く募集し、優秀作品を表彰するとともに、その作品集を刊行します。

- 募集内容　短歌、俳句、川柳、詩／一般の部、小中学生の部
  エッセイ、童話・児童文学／一般、小中学生の募集区分なし
- 募集期間　8月22日（月）～9月4日（日）　＜当日消印有効＞
- 賞　短歌、俳句、川柳、詩／
  名古屋市長賞、名古屋市会議長賞、名古屋市教育委員会賞、名古屋市文化振興事業団賞、名古屋短詩型文学連盟賞、中日賞
  エッセイ、童話・児童文学／
  名古屋市長賞、名古屋市会議長賞、名古屋市教育委員会賞、名古屋市文化振興事業団賞
- 審 査 員　短歌、俳句、川柳、詩／名古屋短詩型文学連盟会員
  エッセイ／内藤洋子、藤田正明
  童話・児童文学／井上寿彦、藤 真知子
- 授 賞 式　11月20日（日）14：00　東文化小劇場　＜どなたでも参加できます＞
- 授賞式内容　表彰、ワンポイントアドバイス、審査員との交流
- 問い合わせ　TEL 052－251－4307（名古屋市民文芸祭実行委員会・㈲オーパ!）

舞台VTR映像専科
ステージの感動を格調高い映像で追求します。

ビデオソフトの企画・制作
有限会社 エーワン.ビデオ.システム
TEL (052)896-2256 FAX (052)896-4100

TOKAI VIDEO SYSTEM
ハードシステム部門
AV機器販売部門（家庭用）
映像企画・制作部門
放送関連部門
機器設備レンタル部門
映像メディアの未来を創る
生きた情報を発信
TVS 株式会社 東海ビデオシステム
名古屋市中区上前津二丁目14-15　TEL.＜052＞322-6541（代表）6562（芸能部）

innovason Ether ES Sound
L-ACOUSTICS lake whirlwind
■ホール舞台音響設備 販売、設計、施工、保守
A&V Professional Use
株式会社エーアンドブイ
〒464－0846
名古屋市千種区城木町二丁目98
TEL052（761）5400
FAX052（761）0909

舞台公演 伝統芸能「和の管絃楽」

能を確立させた世阿弥の教えである「守・破・離」をテーマに「和の管絃楽」と題し、名古屋を中心に活躍中の邦楽家が日本の伝統楽器の素晴らしさを皆様にお届けします。

日　時　10月16日（日）17：00　〈1回公演〉
会　場　青少年文化センター・アートピアホール
制　作　和の管絃楽実行委員会
料　金　前売 一般3,000円、学生（高校生以下）2,000円
当日 一般3,500円、学生（高校生以下）2,500円　＜全自由席＞
問い合わせ　TEL 052-733-8809（㈱OFFICE リラン）

生活芸術 名古屋いけばな芸術展2011

この地域のいけばな作家が流派を越えて季節の花を発表する大規模ないけばな展です。

日　時　＜前期＞11月1日（火）～11月3日（木・祝）
＜後期＞11月4日（金）～11月6日（日）
10：00～19：00
<3日（木・祝）、6日（日）は17：00まで>
会　場　市民ギャラリー栄
参加流派　池坊、石田流、小原流、嵯峨御流、真生流、草月流、日本生花司松月堂古流、オール愛知華道連盟、名古屋華道文化連盟、名古屋市各区いけばな団体連合会
出品点数　244点＜前期122点、後期122点＞
制　作　名古屋いけばな芸術展実行委員会
料　金　前売 400円、当日 500円
問い合わせ　TEL 052－911－9762（名古屋いけばな芸術展実行委員会）

美術 企画美術展「Simple Things」展

今回のテーマは、作品を「みる」。今日の作品は「鑑賞」から「体験」「経験」「参加」へと変化させつつあるようにも見えます。本展では作品を「みる」という基本的かつ根本的な要素にスポットを当てていきます。

日　時　11月9日（水）～20日（日）9：30～19：00（13日（日）、20日（日）は17：00まで）＜14日（月）は休館＞
会　場　市民ギャラリー矢田
出品作家　田口和奈、田中功起、谷村彩、野村和弘、渡辺英司
制　作　「Simple Things」展実行委員会
料　金　無料
問い合わせ　TEL 090－4440－3084（「Simple Things」展実行委員会）

美術 名古屋市民美術展

各区で開催する区民美術展（日本画・洋画・書・彫刻・工芸・写真等の総合公募展）の各部門での優秀作品を一堂に集め、広く市民にその成果を発表します。

日　時　11月22日（火）～27日（日）　9：30～19：00　<27日（日）は16：00まで>
会　場　市民ギャラリー栄
展示作品数　約250点
料　金　無料
問い合わせ　TEL 052－249－9387（（公財）名古屋市文化振興事業団 ）
その他　区民展も作品募集中です。詳しくは、各区まちづくり推進室 生涯学習担当まで、お問い合わせ下さい。

ナゴヤ・アート・ナビ 催し物掲載のご案内

▶http://www.art758.jp

「ナゴヤ・アート・ナビ」ウェブサイトでは市内文化施設の催事案内のほか、市民主催の催し物の情報をご紹介しています。
掲載を希望される方は、ホームページ(www.art758.jp)にアクセスしてお申し込みください。ご応募お待ちしております。
問 名古屋市文化振興事業団 052-249-9385

ワクワク・ドキドキ特典がいっぱい！ 使う！ 創る！ 観る！

名古屋市文化振興事業団『友の会』会員大募集

エンジョイコース（年会費3,000円）
- 事業団主催公演や提携事業のチケット割引！
- 情報満載の「友の会だより」などを毎号お届け！
- 提携ショップでのお買い物の優待割引！
- 会員の皆さまが参加できるイベント開催！など

クリエイティブコース（年会費15,000円）
上記エンジョイコースに加え、次の特典も受けられます。
- 会員主催の公演チラシを事業団施設に無料配布！など

詳しくは、事業団「友の会」事務局まで　TEL 052-249-9385

「なごや文化情報」編集委員

飯塚恵理人（椙山女学園大学文化情報学部教授）
小沢優子（名古屋音楽大学講師）
倉知外子（オクダ モダンダンス クラスター副代表）
酒井晶代（愛知淑徳大学メディアプロデュース学部教授）
田中由紀子（美術批評／ライター）
はせひろいち（劇作家・演出家）

当事業団の募集する事業にお申し込みいただいた場合の個人情報は、当該事業に関する事務連絡及び、当事業団の文化事業に関する案内のみに使用させていただきます。

Information

ナゴヤ・マーチング＆バトン・ウェーブ ’11

東海エリアの地元強豪マーチングバンド&バトントワーリングの団体による、高レベルなパフォーマンス。
特別ゲストはトロンボーン奏者・三塚知貴氏。

日　時　10月2日(日)　12:00
会　場　日本ガイシスポーツプラザ　日本ガイシホール
料　金　500円(運営協力金)<全指定席>
チケット取扱　9月5日(月)発売開始 チケットぴあ(Pコード141-804)、サークルK・サンクス、セブン-イレブン
問い合わせ　名古屋おしえてダイヤル
TEL(052)953−7584　FAX(052)971−4894

Information

ナゴヤまちかどアンサンブル

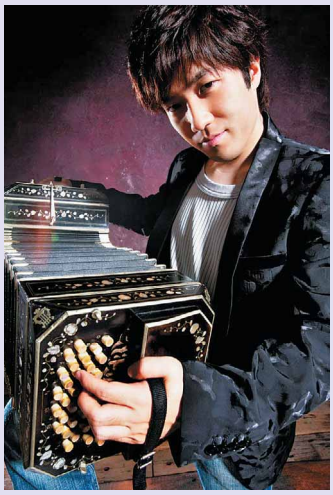
ナゴヤまちかどアンサンブルは、名古屋の街を素敵な音楽でいっぱいにしたいとの思いで始まりました。
愛知県立芸術大学・名古屋音楽大学・名古屋芸術大学・甲陽音楽学院が協力して開催し、名古屋の若手演奏家のフレッシュな演奏をお届けしていきます。

日　時　9月3日(土)〜11月27日(日)の金・土・日曜日、祝日等
会　場　テレビ塔タワースクエア、JRタワーズガーデン、JRタワーズ12階レストラン街、新幹線地下街エスカセンタープラザ、大須商店街ふれあい広場、ナディアパークアトリウム、三越星ヶ丘店ピロティ、ラシック7F、中日ビル1Fロビー等
出　演　愛知県立芸術大学・名古屋音楽大学・名古屋芸術大学・甲陽音楽学院の学生と若手演奏家
料　金　無料
ホームページ　http://www.machikado-ensemble.com
主　催　ナゴヤまちかどアンサンブル実行委員会
(愛知県公立大学法人愛知県立芸術大学・名古屋音楽大学・名古屋芸術大学・名古屋市・公益財団法人名古屋市文化振興事業団)
問い合わせ　公益財団法人名古屋市文化振興事業団
TEL 052-249-9387　FAX 052-249-9386

Information

小松亮太 with ラスト・タンゴ・センセーションズ

TBS 系列「THE 世界遺産」のオープニングテーマ曲を作曲、演奏し、国内外で活躍する 人気№1 バンドネオン奏者、小松亮太。
昨年、再結成したテンキート「小松亮太＆ザ・タンギスツ」が装いも新たに「小松亮太 with ラスト・タンゴ・センセーションズ」として復活!
本場アルゼンチンのタンゴ通も唸らせる、若きタンゴの再現者が、あなたを力強く、情熱的な世界へと誘います!名古屋では初披露となるこの公演をお見逃しなく!



日　時　11月30日(水)　18:45
会　場　アートピアホール[ナディアパーク11F]
出　演　小松 亮太(バンドネオン)、鈴木 厚志(ピアノ)、天野 清継(ギター)
田中 伸司(コントラバス)、近藤 久美子(ヴァイオリン)
料　金　SS席 5,000円　全指定席 4,000円
※事業団友の会会員は1割引　※未就学児の入場はご遠慮ください。
問い合わせ　ナディアパークプレイガイド　TEL052-265-2015

平成23年8月25日発行(毎月1回25日発行)通巻330号 編集発行／公益財団法人 名古屋市文化振興事業団 〒460−0008 名古屋市中区栄三丁目18番1号 TEL(052)249-9390 FAX(052)249-9386 HP http://www.bunka758.or.jp/

デザイン・印刷／東洋印刷工業株式会社

なごや文化情報は、古紙パルプを含む再生紙を使用しています。